



瀬田さん(左)が歌う「双葉の桜」に聞き入る伊沢さん(19日、加須市で)

90歳 復興応援歌を作詞

福島から加須に避難の伊沢さん

福島第一原子力発電所の

事故で、福島県双葉町から加須市に避難してきた伊沢恭子さん(90)が復興応援歌「双葉の桜」を作詞し、19日に同市内で開かれた「よりそいコンサート」で披露された。

「やがて集い 花の下で 会おう 遠く離れても 心に咲く花は 双葉の桜」

コンサートは、東日本大震災の避難者支援に取り組む同市のNPO法人「加須ふれあいセンター」の事務所前で開催され、音楽仲間と慰問活動などを行っている

同市の瀬田洋子さん(59)が避難者ら約100人を前に熱唱した。

作詞は、被災者が自らの気持ちを吐き出した歌がほしいと思っていた同NPOスタッフの今村寛さん(56)(久喜市)が6月下旬頃、伊沢さんに持ちかけた。戸惑いもあった伊沢さんだが、今村さんの説得を受け、90歳にして初めて作詞に挑戦した。

伊沢さんの自宅は福島第一原発から北西約3キロの場所であり、春になると、近くの前田川沿いで約60本の桜が花を咲かせていた。伊沢さんは趣味のカメラで毎年撮影しており、双葉町の花でもある桜をテーマに決め、一人暮らしをする加須市の介護付き高齢者住宅で約1か月をかけて詞を完成させた。

作曲は、2004年の新潟県中越地震で被災した同県十日町市のピアノ調律師、池田靖啓さん(64)が担当した。池田さんは同NPOと縁がある同県長岡市のボランティア団体から紹介されたという。コンサートで瀬田さんの歌声を聞いた伊沢さんは「いい曲を付けてもらって幸せ。これからは皆さんに歌ってもらえたら」と感無量の様子だった。